

スポット企画展

没後80年

岩谷山梔子展

いわやまくちなし

はるの山いくつこゆれハ都かな

「山梔子春夏秋冬」より



細草の藺に似てすゝし知らぬ艸

「山梔子春夏秋冬」より



令和6年

4月17日～7月8日

弘前市立郷土文学館

【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)

【観覧料】一般100円、小・中学生50円

(弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援パスポート持参の方は無料)

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町2-1 (追手門広場内)

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp



岩谷山梔子 大正15年

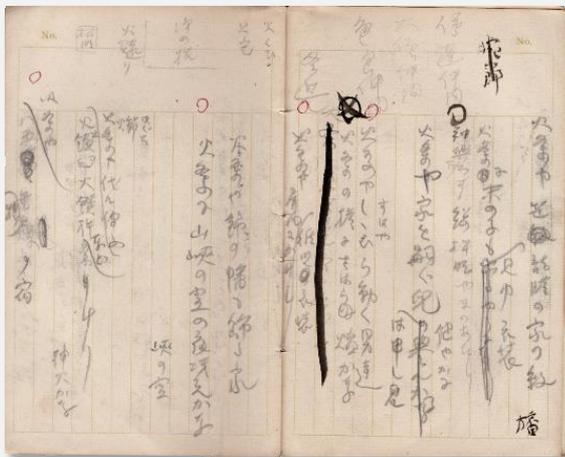
没後 80 年 岩谷山梔子展

岩谷山梔子（本名・健治）は、明治 15 年 10 月 30 日、現在の青森市米町に生まれました。正岡子規が死去した明治 35 年、肋胸骨カリエスの療養中に子規の著作を読み、その頃から俳句を始めます。翌 36 年、新聞『日本』の河東碧梧桐選「日本俳句」に初めて選ばれ、以後、碧梧桐の門下で頭角を現します。その後、京都に移り住み、大谷句仙の俳誌『懸葵』に参加し編集や選にも携わります。大正期に入り、新傾向俳句に進む碧梧桐からは離れ、大須賀乙字に師事しました。昭和に入っても句作を続け、昭和 19 年 1 月 4 日、太平洋戦争さなかの京都で 63 歳で世を去りました。句集に『山梔子第一句集』（大正 13 年）があります。

本展は、岩谷山梔子の句稿・句帖・短冊などの直筆資料を中心に展示し、「巧緻洗練」と称された山梔子の俳句の魅力を紹介するものです。

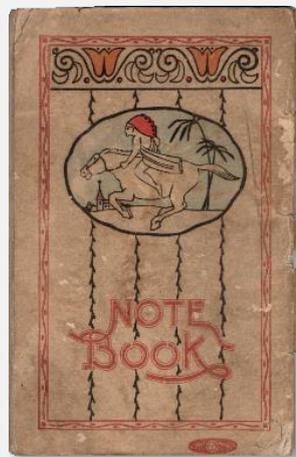


河東碧梧桐来県の際の俳句大会
明治 40 年 2 月 17 日・浅虫
前列左から 4 人目碧梧桐、後列左
から 4 人目山梔子。



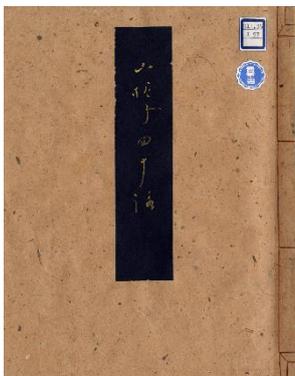
「句稿ノート」

山梔子旧蔵の句稿ノート。「大根焚」と「火祭」の句稿が書かれている。
個人蔵



『山梔子第一句集』

紫苑社・大正 13 年 12 月 25 日



句帖「山梔子四十詠」

山梔子が『山梔子第一句集』以後の作品から「四季四十句」を選び、自書したもの。館田勝弘編『岩谷山梔子全句集』では、大正期 22 句、昭和期 5 句の発表の確認がなされている。

弘前大学附属図書館蔵



句帖「山梔子春夏秋冬」

山梔子が『山梔子第一句集』の中から 50 句を選び、自書した短冊が収められている。作成時期は、昭和 11 年から 18 年までと推定される。